

医療費の窓口負担を安く

「医療費の負担が大変」という場合のために、国民健康保険法第44条の規定を活用して医療費の自己負担を減免できる制度があります。ところが、これがほとんど活用されていません。

猿渡（えんど）久子市議は、この要綱を見直し、使いやすくすべきと求めました。

低所得者のための 制度じゃないの？

この軽減制度を使えるのは、災害にあつた時や失業・廃業などで収入が大幅に減った時です。もともとの低所得者は対象にならないので、これを改善し、恒常的な低所得者も対象にすべき、とえんど久子市議は求めました。

改善は「難しい」と答弁

しかし、国の減免の基

本的考え方は『一時的な所得の減少』が対象だという理由で「恒常的な生活困窮者に対する減免の実施は難しい」という答弁です。



ストップ！生活保護引き下げ

日本共産党市議団は、12月市議会に生活保護の引き下げをしないことを求める意見書を提出しましたが、共産党以外の反対で否決されました。大変残念です。

生活保護の基準は、最低賃金や年金、税金の非課税限度額、国民健康保険税や介護保険料などの減免制度、就学援助や保育料などに影響します。生活保護基準を引き下げることは、国民全体にとってマイナスになり、さらに低所得者を増やすばかりです。

反対の声を大きくひろげましょう。

セーフティネットの充実を

えんど市議は「大阪の八尾市や東大阪市、広島市など、もともとの低所得者に医療費の減免をしている自治体もある。生活保護が増えていくが、生活保護の手前のセーフティネットの充実も必要ではないか」と迫りました。

しかし、前向きな答弁は得られませんでした。今後も粘り強くがんばります。

障害がある人もない人も 安心して安全に暮らせる別府市条例

1月21日、中央公民館でのタウンミーティング。
多くの参加者から積極的に意見が出されました。



6月議会に提案

別府市では、障害がある人もない人も安心して安全に暮らせる別府市条例づくりの取り組みがすすんでいます。

今年6月市議会に提案され、来年4月施行をめ

ざしています。市として障がい者への差別をなくすための条例を制定するのは、別府市が全国3番目となります。

意見を出し合い条例に反映を

条例の素案を市民のみなさんに説明し、ご意見をいただくためのタウンミーティングが開かれています。

21日には中央公民館で5回目のタウンミーティングが開催され、38名が参加しました。支援学校の先生から、知的障がい者への配慮や住む場所

の問題などについてご意見や質問が出されるなど、様々な意見・質問が出されました。

市民が主体で作っている条例です。ぜひ、多くのみなさんのご意見を反映させ、実行性のあるものにするためにも、みなで力をあわせましょう。



えんど久子市議は、議会だより編集委員として、市議会だよりの表紙写真を提供しています。新春号や2月1日号などの表紙写真はえんど市議が撮影したものです。

タウンミーティングのお知らせ

27日(日) 別府市社会福祉会館 午後1時半～3時
多くのみなさんが参加し学びあいましょう。

日本共産党市議団のHPや、えんど久子のHP「はっぴーえんどどっとねっと」をぜひご覧下さい。